２０２６年９月実績概要（メモ）

（２０２６．１０．２９）

エチレン生産が弱含む中、誘導品での定修規模差等から、当月は化成品類の増産への偏向が見られる。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　３７１，４００トン

前　月　比　　▲　４．７％（▲　１８，５００トン）

前年同月比　　▲１３．７％（▲　５９，１００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲　３．２　％	－
定修要因等	＋　３．４　％	▲　３．９　％
能力増減	－	－
稼働率変動	▲　４．９　％	▲　９．８　％
生産増減率	▲　４．７　％	▲１３．７　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月７３．５％ → 当月７０．２％ ← 前年同月７７．５％

定修プラント：前月　１社１プラント　→ 当月　１社１プラント　← 前年同月　なし

ロ）主な石油化学製品

前月比は、日数減に加えて、定修規模差や稼働率要因からLDPE、HDPE、PS、SM、MMAモノマー、BRなど１１品目がマイナス。EO、EGアセトアルデヒド、ANなどの６品目はプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、トルエン、キシレンなどの１４品目がマイナス。LDPE、SBRなどの３品目のみはプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産

前月比は、日数減とともに定修規模の拡大や稼働率要因からLDPE、HDPE、PSはマイナス。PPは主に定修規模の縮小からプラスとなった。

前年比は、定修規模の縮小や稼働率要因等からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSはマイナスとなった。

ロ）国内出荷

消費マインドは、暮らし向きや耐久消費財の購入の面でやや鈍化が見られるも、総じて消費マインドは持ち直しの動きが続いている。他方、物価上昇の面では、消費者物価指数が前年に対し２%を上回る上昇を見せるなど消費への下押しが強くなっている。国内の生産活動は、９月時点の予測では、電気・情報通信機械、輸送機械等で上昇が見込まれている。

汎用樹脂の出荷は、ユーザー側のお盆休みとの関係から、前月は大きな落ち込みが見られたが、当月はLDPE、HDPE、PP、PSともに大幅な出荷増加となった。前年比では、これまでの輸入品の累積や川下のプラスチック製品産業の在庫率の高まりもあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、前年比で、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスが続いている。包材以外の出荷分野では、前年比で、LDPE、HDPEはほとんどの分野においてマイナスとなった。PPでは射出成形分野の工業部品向けが前年並となったほか、フラットヤーン分野のみがプラス、PSは電機・工業用分野だけがプラスと増加分野は限定されたものとなっている。

ハ）輸　　出

原油、ナフサ相場の乱高下が続き、需要家側でも先行きを見極めようと様子見の姿勢が多くなった。

当月は、伸び率として、前月比でLDPE、HDPE、PPはプラス。前年比もLDPE、HDPE、PPでプラス、PSのみはマイナスとなった。

ニ）在　　庫

在庫量は、前月に対して、LDPEは微減、HDPE、PP、PSは若干の増加となった。在庫率(季節調整済）はLDPE、HDPEは低下、PPは前月並み、PSのみは僅かに上昇した。

在庫水準としては、LDPE、HDPEはやや高め、PP、PSはほぼ適正範囲となっている。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		８月末	９月末
LDPE	▲　５，３００	３．７	３．５
HDPE	＋　　６００	４．４	３．６
P　P	＋１７，０００	３．２	３．２
P　S	＋　１，３００	２．４	２．５

以　上